

暮らし見つめて

利用者本位の投信ガイド

「○○○ファンド」「○○○オープン」といった名前が付いている投資信託（投信）は証券会社のほか、銀行や郵便局でも売られるようになった人気の金融商品だが、仕組みをよく理解していない投資家

が多く、売る側とのトラブルが絶えない。その状況を改善しようと、金融問題に詳しい女性グループがこのほど投信の入門ガイドを作ったので、紹介しよう。

（白井康彦）

女性グループ作製

このグループは「良質な金融商品を育てる会」（フォスターフォーラム）。代表の高橋伸子さんは生活経済ジャーナリストで、東京証券取引所の社外取締役でもある。

事務局長の永沢裕美子さんとメンバーの石川由美子さんは、証券会社や証券関連業界の勤務歴があり、石川さんは投信を幅広く解説するホームペー

「ジ」投信資料館を開いて好評を博している。売る側の利益を意識した商品説明が販売現場で横行していることや、投資経験の浅い人にぴったりのパンフレットがないことに危機感を持ち、ガイドを作った。

投信についての知識を問う十二の設問があり、一つでも「いいえ」があったら、投信をすぐには買わずに勉強し直すことを勧めている。ガイドは同会のホームページから入手できる。

××

元本保証なし／目論見書は必読

投信を預金と同様のものと誤解している人が少なくない。そのため、投資して損失が出たときに「こんなはずではなかった」ということになる。

そこでまず「多くの投資家からお金を集めて、資産運用の専門家が株や債券などに投資をし、その収益を投資家に分配する仕組みの商品」と説明。「預貯金のように元本の保証があるわけでは

ありません。損をすることがあることを忘れないでください」と基本中の基本を強調している。投信を売っているのは証券会社や銀行などだが、集まった資金を運用しているのは投資信託会社だ。投資家は販売手数料や信託報酬を負担する必要がある。また、投信には「基準価額」と呼ばれる値段があって日々変

動している。こうした仕組みを解説。投資信託協会のホームページや協会が無料配布している資料やパンフレットを参考に

法についての重要事項が呼びかけている。賢い投資家になるための努力も求めている。投

資信託の仕組みや運営方法についての重要事項が呼びかけている。賢い投資家になるための努力も求めている。投

資信託の仕組みや運営方法についての重要事項が

書かれている目論見書については「がんばって読みましょう」と強調し、「こんな難しいものは読めない」という人は、投資には不向きです」と断言している。

投資信託会社については、その会社のホームページなどで信頼性をチェックするよう助言。投信の個々の商品については「設定されてから三年以上たっているか」「残高が三十億円以上あるか」の二点を調べるよう求め、「以上」である商品の方を勧めている。

投資姿勢では「基準価額が大幅に下がったときにも生活に支障のない金額の投資にしましょう」とアドバイスしている。

××

ホームページアドレスは、良質な金融商品を育てる会は「<http://www.w.fosterforum.jp/>」、投信協会は「<http://www.toushin.or.jp/>」、投信資料館が「<http://www.toushin.com/>」



投資信託の入門ガイドについて話し合う「良質な金融商品を育てる会」のメンバー

基本から選ぶ基準まで